



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年10月31日

上場会社名 三菱化工機株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6331 URL <http://www.kakoki.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 山中 菊雄
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 齋藤 雅彦 TEL 044-333-5354
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	13,449	△23.6	166	—	291	—	201	—
26年3月期第2四半期	17,603	△16.3	△1,632	—	△1,624	—	△3,496	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 844百万円 (—%) 26年3月期第2四半期 △3,210百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	2.54	—
26年3月期第2四半期	△44.22	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	39,921	13,942	34.9	176.35
26年3月期	41,411	13,545	32.7	171.33

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 13,942百万円 26年3月期 13,545百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,800	0.9	970	—	1,000	—	900	—	11.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	79,139,500株	26年3月期	79,139,500株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	77,723株	26年3月期	77,083株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	79,062,123株	26年3月期2Q	79,062,568株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日本銀行の経済対策及び金融政策を背景に、企業業績や雇用情勢の改善がみられる等、緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により個人消費が落ち込み、また、民間設備投資や企業の景況感は小幅な回復にとどまり、さらにはエネルギーコストが上昇する等の懸念要因もあり、先行き不透明な状況が続きました。

このような事業環境の下、当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は、既受注の大型工事の売上寄与が前期で終了したことに加え、当第2四半期連結累計期間の受注の伸び悩みを反映し、13,449百万円と前年同四半期に比べ23.6%の減少となりました。損益面におきましては、売上高は減少いたしました。各種コスト改善及び固定費の削減に取り組みました結果、当第2四半期連結累計期間における営業利益は166百万円（前年同四半期は1,632百万円の損失）、経常利益は291百万円（前年同四半期は1,624百万円の損失）と大幅に改善し、四半期純利益は201百万円（前年同四半期は3,496百万円の損失）を計上することができました。

なお、当社グループでは、売上高が上半期に比べ下半期に、また、第2四半期連結会計期間末及び連結会計年度末に偏る傾向があります。

セグメントの業績は次のとおりであります。

エンジニアリング事業については、売上高7,605百万円（前年同四半期比36.0%減少）、経常損失329百万円（前年同四半期は1,935百万円の損失）となりました。

単体機械事業については、売上高5,843百万円（前年同四半期比2.2%増加）、経常利益621百万円（前年同四半期比100.1%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,490百万円減少の39,921百万円となりました。これは、株価上昇に伴う時価のある有価証券の評価差額の増加等による投資有価証券の増加852百万円、仕掛品の増加343百万円等がありましたが、現金及び預金の減少1,903百万円、受取手形及び売掛金の減少933百万円等の影響によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,886百万円減少の25,979百万円となりました。これは、前受金の増加684百万円、その他（固定負債）の増加357百万円等がありましたが、短期借入金の減少2,000百万円、支払手形及び買掛金の減少734百万円等の影響によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ396百万円増加の13,942百万円となりました。利益剰余金の減少246百万円等がありましたが、その他有価証券評価差額金の増加552百万円等の影響によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、営業活動により資金を獲得しましたが、固定資産の取得及び借入金の返済に使用した結果、1,903百万円の減少となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は、183百万円となりました。これは、仕入債務の減少730百万円、たな卸資産の増加397百万円、前渡金の増加163百万円等により資金が減少いたしました。売上債権の減少929百万円、前受金の増加684百万円、税金等調整前四半期純利益の計上291百万円、減価償却費の計上292百万円等により資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は、95百万円となりました。これは、長期貸付金の回収による収入8百万円等により資金が増加いたしました。固定資産の取得108百万円等により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は、2,007百万円となりました。これは、主に短期借入金の純減少額2,000百万円により資金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間の業績は、平成26年10月31日に発表の「平成27年3月期第2四半期の業績予想と実績との差異に関するお知らせ」に記載のとおり、既受注の大型工事の売上寄与が前期で終了したことに加え、当第2四半期連結累計期間の受注の伸び悩みを反映し、売上高は当初予想を下回りました。損益面におきましては、売上高は減少いたしました。各種コスト改善及び固定費の削減に取り組みました結果、当初の赤字予想から黒字に転換いたしました。

今後の経済動向につきましては、景気の緩やかな回復基調が続くことが期待されますが、民間設備投資には一部に回復の兆しがみられる一方で個人消費回復の動きは鈍く、さらには円安傾向に伴う燃料及び原材料の輸入コストの上昇等の懸念要因もあり、景気の先行きは予断を許さない状況が続くものと見込まれます。

上記の経済動向を鑑み、通期の業績予想につきましては、平成26年5月15日に公表した予想値から変更いたしません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が447百万円増加し、利益剰余金が同額減少しております。なお、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,554	6,651
受取手形及び売掛金	14,201	13,267
製品	695	717
仕掛品	1,689	2,033
材料貯蔵品	714	747
その他	1,398	1,715
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	27,250	25,128
固定資産		
有形固定資産	5,230	5,071
無形固定資産	324	290
投資その他の資産		
投資有価証券	8,420	9,272
その他	192	166
貸倒引当金	△6	△7
投資その他の資産合計	8,606	9,431
固定資産合計	14,161	14,793
資産合計	41,411	39,921
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,612	6,878
短期借入金	8,000	6,000
未払法人税等	22	37
前受金	332	1,016
賞与引当金	382	376
完成工事補償引当金	331	245
受注工事損失引当金	—	0
その他	848	625
流動負債合計	17,529	15,178
固定負債		
長期借入金	1,727	1,727
役員退職慰労引当金	254	190
P C B 処理引当金	20	17
退職給付に係る負債	7,089	7,262
その他	1,246	1,604
固定負債合計	10,336	10,800
負債合計	27,866	25,979

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,956	3,956
資本剰余金	4,202	4,202
利益剰余金	5,096	4,850
自己株式	△17	△17
株主資本合計	13,239	12,992
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,522	3,075
為替換算調整勘定	△144	△238
退職給付に係る調整累計額	△2,072	△1,887
その他の包括利益累計額合計	306	949
純資産合計	13,545	13,942
負債純資産合計	41,411	39,921

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	17,603	13,449
売上原価	16,510	10,919
売上総利益	1,092	2,529
販売費及び一般管理費	2,724	2,363
営業利益又は営業損失(△)	△1,632	166
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	97	110
為替差益	—	105
その他	35	16
営業外収益合計	136	233
営業外費用		
支払利息	46	57
支払手数料	26	27
為替差損	39	—
その他	16	22
営業外費用合計	128	107
経常利益又は経常損失(△)	△1,624	291
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,624	291
法人税、住民税及び事業税	10	31
法人税等調整額	1,861	58
法人税等合計	1,871	90
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△3,496	201
少数株主利益	—	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,496	201

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失（△）	△3,496	201
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	187	552
為替換算調整勘定	98	△94
退職給付に係る調整額	—	184
その他の包括利益合計	285	643
四半期包括利益	△3,210	844
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,210	844
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,624	291
減価償却費	364	292
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△17	1
賞与引当金の増減額(△は減少)	79	△6
完成工事補償引当金の増減額(△は減少)	49	△86
受注工事損失引当金の増減額(△は減少)	△325	0
退職給付引当金の増減額(△は減少)	26	—
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△22	△63
P C B 処理引当金の増減額(△は減少)	△0	△3
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	△89
受取利息及び受取配当金	△100	△111
支払利息	46	57
為替差損益(△は益)	39	△105
売上債権の増減額(△は増加)	5,538	929
たな卸資産の増減額(△は増加)	△293	△397
前渡金の増減額(△は増加)	191	△163
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,072	△730
前受金の増減額(△は減少)	△704	684
その他	△129	△340
小計	△954	159
利息及び配当金の受取額	100	111
利息の支払額	△46	△57
法人税等の支払額	△17	△30
営業活動によるキャッシュ・フロー	△917	183
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△237	△108
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
長期貸付けによる支出	△2	—
長期貸付金の回収による収入	1	8
その他	12	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△229	△95
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,000	△2,000
リース債務の返済による支出	△6	△7
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,006	△2,007
現金及び現金同等物に係る換算差額	182	17
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,971	△1,903
現金及び現金同等物の期首残高	9,827	8,553
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,856	6,650

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアリング事業	単体機械事業	
売上高			
(1) 外部顧客に対する売上高	11,888	5,715	17,603
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	11,888	5,715	17,603
セグメント利益（△は損失） （経常利益（△は損失））	△1,935	310	△1,624

- II 当第2四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアリング事業	単体機械事業	
売上高			
(1) 外部顧客に対する売上高	7,605	5,843	13,449
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	7,605	5,843	13,449
セグメント利益（△は損失） （経常利益（△は損失））	△329	621	291